

令和7年8月7日（木）
江別市立大麻中学校
廣中 未来

1. 単元名 第2章 日本の特色と地域区分 「6 災害から身を守るために」

2. 単元や本時においての研究との関わり

今回の単元「災害から身を守るために」は、主に「ハザードマップ」に触れ、防災から「減災」へと考え方が変わってきていること、また、自然災害から身を守るためには「公助・共助・自助」を高める必要があることを学習する内容である。

研究：「1年次：社会的事象への関心を高められる授業の展開」との関わりについて

◎生徒が切実性・必要性を感じ、学びに向かう気持ちを高める工夫

本時の学習を進めるにあたり、ただ教科書の内容をおさえるだけではなく、生徒が住んでいる江別市の防災対策について考えさせることとした。そのため、展開前半で「江別市ではどのような対策や支援が行われているのだろう」と生徒に問いかける場面を入れた。また、江別市でもハザードマップが作成され配布されていることから、実際のハザードマップを活用したグループ学習を取り入れた。これらの工夫から、生徒は自分が住んでいる「地域」という視点で自分事として「減災」や「公助・共助・自助」について考えることができるのではないかと考えた。

◎生徒の学びに向かう気持ちを、「知識・技能の習得」「社会的な見方・考え方を働かせた思考・判断・表現」につなげる工夫

今回の授業を行うにあたり、江別市役所よりハザードマップを6班×4クラス分いただいた。中にはハザードマップを見たことがない生徒もいると思うので、実物を見て、そこに書き込む作業をすることで、「地域」という視点で学習を深められると考えた。また、今回のグループ分けは住んでいる場所が近い生徒同士で分けることにした。災害予測の話し合いをする際に、生活圏を知っている人同士だからこそ「ここは安全」

「ここは災害時に危険がある」など実際の地域を思い浮かべながら、話し合いをより深められると考えたからである。

◎「導入の工夫」を単元や本時の学習（展開・まとめや振り返りといった終結）に効果的に生かす工夫

この授業の「導入の工夫」は、教科書の内容確認を導入に持ってくることである。前時では自然災害の種類と災害が起こる要因について学習した。それを踏まえた上で、導入で「減災」「公助・共助・自助」に触れることで、後半のグループ学習で考えを深める「視点」を生徒に与えられると考えた。

3. 単元の指導計画

	単元を貫く課題	分布 日本の国土にはどのような地域的特色があるのだろう
	学習内容	見方・考え方
0	地域区分をしてみよう	
1	1 変動する大地、安定した大地	分布 ・教科書の地図を活用し、震源地と火山の分布から活発な大地と安定した大地があることに気付かせる
2	2 変化に富む日本列島の地形（1）	
3	3 変化に富む日本列島の地形（2）	
4	4 四季のある気候	分布 ・日本の気候区分とその分布から、どうして日本の気候は6種類に分かれるのか季節風に触れながら考えさせる
5	5 自然災害に向き合う	結びつき ・日本で起こる自然災害について、何と関係しているのか既習事項から考えさせる
6 本時	6 災害から身を守るために	地域 ・江別市でどのような災害対策・支援が行われているかを考えさせるとともに、実際に江別市のハザードマップを使い、災害時にどのように身を守るか考えさせる
7	7 変化する人口	
8	8 人口分布のかたよりがもたらす問題	分布 ・教科書の地図を活用し、日本国内の人口分布から、過疎・過密が生まれていること、またその課題を考えさせる
9	9 輸入に頼る資源・エネルギー	
10	10 日本の産業活動と立地	
11	11 交通・通信による結びつき	結びつき ・交通と情報通信の視点から、日本と世界の結びつきについて考えさせる

4. 本時の学習

(1) 本時の目標

- ・ハザードマップの読み取りを通して、自然災害から身を守るための対策や江別市の防災に向けた取り組みについて考え、自分の考えを表現している。(思考・判断・表現)
- ・グループのメンバーと意見交流をしながら、積極的に取り組もうとしている。(主体的に学習に取り組む態度)

(2) 展開案

過程	生徒の学習活動	教師の学習活動	留意点
導入 10 分	○前時の復習 ・ペア対話形式 ○教科書内容の確認、板書を写す ○江別市の取り組みについて考える	○ペアの指示を出し、タイマーの設定 ○教科書内容の説明、板書 ・防災から減災へ ・公助、共助、自助 「江別市ではどんな取り組み、支援がされているのだろう」 ・ハザードマップ	机間巡視
展開 40 分	江別市の防災あんしんマップを使って、災害から身を守るための対策や支援について考えよう		グループ はあらか じめ作成 机間巡視 机間巡視 机間巡視
	○グループに分かれる ○あんしんマップと WS に沿って災害予測 ・自分の家の場所にするし ・浸水想定区域の確認 ・指定緊急避難場所の確認 ○自宅から避難場所へのルート確認 ・話し合いながら取り組む ・災害時に危険が予測される場所にするし をつける ・安全が確保されるルートを探して書き込 む ○その他、必要事項の確認 ・災害時給水栓 ・トイレ ・食料品や日用品が購入できる店 ○あんしんマップの表面（情報欄）を確認 ・備蓄品等の確認	○グループの指示、道具の配布 ・住んでいる地域ごとに 6 班 ・防災あんしんマップ、WS ○活動の指示 ・電子黒板に凡例を映して説明する ・浸水想定区域について説明する ・指定緊急避難場所について説明する ○グループで話し合いながら危険予測をす るように指示 ○マップ内から探してしるしをつけるよう 指示する ○電子黒板に映す	
まとめ 10 分	○減災について考える ・現在していること ・今後すべきこと ○ふりかえりを書く	○グループではなく、個人で考えるように 指示する ○WSを回収する	

(3) 本時の評価

- ・ハザードマップの読み取りを通して、自然災害から身を守るための対策や江別市の防災に向けた取り組みについて考え、自分の考えを表現している。
- ・グループのメンバーと意見交流をしながら、積極的に取り組もうとしている。

ハザードマップを読み取ろう

課題 江別市の防災あんしんマップを使って、災害から身を守るための対策や支援について考えよう。

○あなたの住所（番地は書かなくていいです） ○自宅は浸水想定区域に入って

江別市	いる	→入っている場合の浸水深は
	いない	

○自宅から近い指定緊急避難場所の確認

地震	
洪水・土砂災害	

○自宅から指定緊急避難場所までのルート確認
→そのルートは災害時でも通れる？ 安全が確保される？ 危険なものは周りにない？

○災害時給水栓・トイレ・食料品や日用品が購入できる店の確認

○備蓄品等の確認

備蓄品（例）
災害時、自宅で数日間過ごすために
平時から準備しておきましょう。

食料品・飲料水
(1人1日3日)

カセットコンロ、
携帯トイレ

ディシュペーパー

ランタン

乾電池・携帯電話の
バッテリー

ポータブル
ストーブ

救援時のホイッスル

段ボール、
防災保温シート

給水ポリタンク
などの給水容器

ビニール袋、工具、ロープ

非常持ち出し品（例）
避難所等へ避難する際に、すぐに持ち
出せる様に準備しておきましょう。

現金・貴重品

懐中電灯・携帯ラジオ

ライター・
マッチ

常備薬

衣類・防寒衣

食料品・飲料水

寝袋・毛布

使い捨てカイロ

厚手の
手袋

自分しが持っていない物・替えのきかない物

- ・粉ミルクや哺乳瓶、離乳食、紙おむつ、母子手帳等
- ・メガネ、入れ歯、補聴器、お薬手帳、大人用おむつなど
- ・ペットの餌

衛生用品（例）

- ・体温計、マスク、アルコール消毒液、ハンドソープ、ウェットティッシュなど

○自然災害に備えて…

現在していること
今後する必要があること

○今回の学習をふりかえて

生徒のWS より

自分の家が、浸水や地震の被害に合いやすいことが、
はじめて知った。家族に共有して、被害を少なくしたい
と思った。

思っていた以上に、災害にそなえて「ない」とわかったので、ちゃんと家族と話しあ
りしようと思った。

自分に今足りていることと、足りていないことを知ることで、できて良かったし、学んで
家族に共有したいと思った。

中町は土砂崩れが起きる可能性があるところがあることが
分かったので、知らないと危険だったな、と思った。常にメ
リットできるようにしたいと思った。

小学校のころに、西小の方は、土壌が高いから大丈夫と言われていたのが、あま
り意識したことがありませんでした。なので、ひかり町の方が、洪水のおそれがある
のは知らなかったのが失礼でした。

改めて考えてもあまり対策をしていなかったのが、
家族と話し合っ
て、対策をしたいと思います。

ひなん場所の確認をするとき、マップとかを見ないで話し合いを
していたから、マップとかをみて、一番近いところをみつけて、時間ある
ときに1回行ってみるとかした方がいいと思った。

江別市でも川のはんらんや土砂くずれが起こることが分かりました。
だから、それに備えて、特に食料などは備えておきたいなと思いました。
また、ひなん所も、今日初めて確認できたので良かったです。